

市立函館病院高等看護学院 学校関係者評価委員会報告

2024 年度 学校関係者評価委員会は、学校関係者(卒業生)より直接問い合わせを実施して意見を回収した。

1. 市立函館病院高等看護学院で学んだことで卒業後、役立ったこと

市立函館病院高等看護学院での学びは、卒業後の看護実践に大いに役立っている。特に基礎看護技術は、在学中の演習や臨地実習を通じて実践的に学ぶことができたため、就職後も早い段階で現場の技術に慣れることができた。また、患者の安全・安楽に配慮した基礎的な看護技術と判断力が求められる場面でも、学院で培った知識と技術が役立っている。学内の演習では、それぞれの観察点や注意点を理解していたため、臨床現場でも自信を持って対応することができた。

実習中には、自らアセスメントを行い、指導者や教員から助言を受けることでアセスメント能力を深めることができた。さらに、グループワークを活用して仲間と意見交換を重ねたことが、臨床でも役立っている。

学院では日頃から教員に相談しやすい雰囲気があり、報告・連絡・相談の重要性を実感し、自然とその習慣が身につき、就職後のチーム医療において大きな力となっている。学院で経験した看護研究の取り組みも、現在進めている研究活動に活かされている。文献の収集やテーマの考察など、学生時代に得た経験が、今に繋がっている。

現在、厳しい実習や課題、国家試験の勉強を乗り越える中で身についた「忍耐力」は、看護師として日々の業務を継続するための大きな支えとなっている。

2. 就職後、学院のカリキュラム（教育課程）に組み込まれていたなら役に立ったと思う授業や演習など（具体的に）

- ・認知症ケア（BPSDやユマニチュード）
- ・化学療法の基礎知識
- ・ドレーン管理の演習（PTGBD・胸腔ドレーン）
- ・多重課題への対応訓練
- ・様々な食形態を体験する食事介助演習
- ・電話、来客対応のマナー教育
- ・医療略語の学習（IV・SCなど）
- ・放射線科の実習（外来対応やバイタル管理の理解に有効）

3. 学院への要望（授業や実習、学院生活など）

臨床は、身体で覚えることが多く、学生の時から多くの演習を経験することが重要だと感じている。特に、複数患者の受け持ちや多重課題対応を含む統合実習のような内容をもっと経験したいという意見が出された。

また、実習先ごとの指導方針の違いをなくし、指導の統一を図ることで実習の質を高めてほしいという要望もあった。

学生時代に社会人としての接遇をもう少し学ぶ機会の必要性が出された。

以上